



日本老年行動科学会
Japanese Society of Behavioral Sciences for the Elderly

お知らせ No.14

<学会事務局>

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内1-24-1

電話・FAX: 03(5941)5270

<学会ホームページ>

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsbse/>

会議・催事の報告とご案内

10月18日 第5回常任理事会が開催されました

日時：平成20年10月18日（土）18:00～20:00

場所：明治学院大学白金キャンパス

（東京都港区）

出席者：佐藤会長他17名（欠席4名）

議題

1) 報告・確認事項

①本部会計報告・事務報告

②会員動向（9月末日で700名）

③各委員会と事業関係報告

④支部活動報告

⑤一般・企業向け講演・セミナー企画と後援

…2009年1月および3月に、2回シリーズで「栄養と健康講座」を開催する。

⑥2009年度の老年行動科学講座について

…3年連続の基礎編プログラムを全面改訂。「行動科学」により比重を置い

た内容とする。

⑦特別会員等についての会則改訂について

…「特別会員」規定が不明瞭であり、より実情に適合した規定に改訂することとなった。

⑧学会誌等、学会刊行物の著作権について

…今後学会誌掲載論文については著者全員から著作権に関する許諾書に署名・押印を依頼することとする。

2) 審議・協議事項

①2009年さいたま大会の取り組みの基本的な考え方と進め方について

※常任理事会は年に6回開催されます。

今回は12月20日（土）の予定です。

総会のご案内

2009（平成21）年度の定時総会が2月15日（日）に明治学院大学白金キャンパスで開催されます。

会員の皆様には万障繰り合わせのうえご参加いただきますようお願い申し上げます。

学会誌（「高齢者のケアと行動科学」）編集委員会から

「本の紹介」掲載用の図書推薦のお願い

学会誌では「本の紹介」コーナーを設けております。会員の皆様が出版した本や報告書、是非会員の皆様にご存知の書籍などがありましたら、編集委員長か学会事務局にお知らせ下さい。学会誌で取り上げることが適切かどうかを編集委員会で判断をしてから、会員のどなたかに書評をお願いしたいと思います。是非この方に書評をしていただきたいと思いますという希望がある場合は、合わせてお知らせ下さい。

報告・ノートの特稿について

本学会の学会誌「高齢者のケアと行動科学」では、第13巻2号でお知らせしたように、従来の「実践報告」「研究報告」に加え、新しく「実践ノート」「研究ノート」の特稿を受け付けることになりました。

「実践ノート」は高齢者ケアの現場で試みられているアイデアや取り組みについて、報告していただくことを目的としています。「研究ノート」は「研究報告」までの完成度はないが会員にとって意義のある研究を報告していただくことを目的としています。どちらも図表込み

で16,000字までの字数です。

次回編集委員会は12月1日の予定です。11月25日までにお送りいただいた原稿については、原則として12月の編集委員会にて受け付けます。

その後、査読を行い、原則として、来年3月上旬に開催される編集委員会で、査読結果を審議し、審議の結果を速やかに投稿者に通知するように致します。

なお、投稿は、学会誌編集事務局まで、お願いいたします。多くの会員の方からの投稿をお待ちしています。

広告のお願い

学会誌掲載の広告を募集しています。

広告料は1頁で4万円、1/2頁で2万円、1/4頁で1万円です。

上記事項に関するお問い合わせはいつでも下記にお願い致します。

日本老年行動科学会 学会誌編集事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

筑波大学大川一郎研究室内

ラジオを聴いて

本田 憲康 (本学会副会長・社会福祉法人理事長)

私はテレビのホームドラマやサスペンスが好きではありません。世の中には騙した、騙された、誰が殺した、泣かされたなど掃くほどあり、家に帰ってまでも見たくないからです。それゆえに「おしん」「渡る世間は鬼ばかり」の脚本家・橋田寿賀子さんの名前は知っていましたがドラマに興味をわきません。それが通勤中の車のラジオで対談を聞き、早速、橋田さんの本「夫婦の格式」を買いました。何に興味を引かれたかといえば、夫婦のあり方、家族のあり方を語っていました。今社会問題となっている多くの事、学校教育、家族間の殺傷、介護、国民の多くが豊かさを感じない、ゆとりのない社会、などに対するご意見を述べられていたからです。

橋田氏は「家族、夫婦、男女のありようが激変している。自己主張を強める妻と、その妻を御せない夫が築く未熟な家族模様は、さまざまなトラブルの元になっている。夫婦がばらばらで、その子供が情緒豊かな、バランスの取れた人間に育つはずがない」と指摘し、その原因として「戦後の日本人は、西欧人が近代という長い歴史の中で編み出した民主主義を根底のところで理解しないまま、うわべの平等と権利だけを取り込んでしまった。それが、日本の美徳や美風を壊してしまった」と述べられています。

そして戦前の社会が全面否定されている現在、橋田氏は「夫婦の間にも、互いに守るべき、きちんとした決まりごとがありました。社会というものに裏打ちされた格式と言うものがあったのです。格というのは決まり、式というのは物事の進め方、やり方や形の事です。いまのようにルールも何もないより、格式があったほうが女も精神的に楽だったかもしれません」との意見です。橋田氏のご自分の作品の中に周囲の反対を押し切り、この「格式」を挿入してきたとも述べられています。そして多くの人々は人気を博すドラマの中に、日本人の深層に流れる文化を感じ、その文化を受け入れたからこそ、彼女の作品が好まれてきたのかもしれない。

※この「ショート・レター」はメール配信サービス9月号に掲載されたものを再掲しています。
メール配信サービスでは学会の情報等をいち早く会員の皆様にお伝えしています。
学会ホームページより簡単に登録できますので、ぜひご登録下さい。

老年行動科学講座が全面リニューアル

本年度も多数のご参加をいただきました老年行動科学講座ですが、来年度は内容を全面リニューアルいたします。

これまでの「基礎編」を受けて、来年度からは「行動科学」に比重を置いた「中級編」というべき内容にバージョン・アップする予定で、新たな講師も迎えます。これまでの講座を受けられた方も、初めて参加される方も、どなたでもご参加できます。

募集は来年3月開始予定です。詳しい内容につきましては、決定次第随時お伝えしてまいります。

新たな「老年行動科学講座」にご期待ください！



井上教授のコラムアーカイブ (2)

ポックリ寺の調査から ～高齢者の尊厳とは何か～

…中央法規出版「歳をとることが本当にわかる50の話」より

「歳をとる」とはどういうことでしょうか。「認知症」とはどんな状態なのでしょう。この学会に関心を示した皆さんは、既にそのようなことは経験的に、あるいは本などからの知識を得てよくご存知かもしれません。

でも、どんな状態になるかはわかっていても、その背景となる心理はどうでしょうか。お年寄りを子ども扱いしたり、徘徊や盗癖などの問題行動を「認知症だから」で片付けたりはしていないでしょうか？分かっているようで実は分かっていないこともあるかもしれません。

このコラムでは、日本老年行動科学会の前会長で、現在は駿河台大学教授である井上勝也氏が、長年の高齢者研究の経験から、「水をほしがる人にパンを差し出すような見当違いの対応」が少しでもなくなるよう、高齢者の心と行動について語ります。

※なお、本連載は井上教授の許可を得て、過去に発表された文章を再掲させていただいています。

奈良県斑鳩の里に、ポックリ寺として名高い「清水山・吉田（きちでん）寺」があります。ここにお参りすれば、寝つかず下の世話にもならず“速やかに”あの世に旅立てる、ということでお年寄りに人気のある寺です。筆者はこの寺で、「なぜそんなにもお年寄り、この寺にお参りしたがるのか？」その参詣動機を調査しました。

【ポックリ寺参詣の動機】

全部で91名のお年寄りへの面接結果ですが、大半すなわち93%の人が、「寝たきりになって他人に迷惑をかけたくないでポックリ往きたい」と口をそろえたのです。

「ガンなどの苦痛に耐えられないので」など他の理由もありましたが、すべて少数派でした。寝たきり状態になって人に迷惑がられる――。お年寄りが強くそれを“恐れて”いる様子うかがえます。

しかしよく見ると、実はこの回答は少し変です。「寝たきり」と「人に迷惑」は、本来別々の事柄のはずです。寝たきりだか

らといって人が必ず迷惑するとは限らないし、反対に、人に迷惑なのは何も寝たきりばかりではないからです。つまりこの回答は、本来別々の2つの事柄がワンセットになって答えられているのです。

では、ポックリ往きたい訳としては、その2つのうちどちらがより強いのでしょうか。

“寝たきり”がいやなのでポックリ往きたいのでしょうか、それとも“人に迷惑”がポックリを願わせるのでしょうか。それが気になります。

それを調べるために、「寝たきりで他人に迷惑なので」ポックリ往きたい、と答えた93%の人に、さらに次のような質問を重ねてみました。「あなたが万が一寝たきりの状態になったとしても、あなたの家族が本当に心優しく温かく、どんな姿でもいいから1日でも長生きしてほしいと思い、喜んで面倒を見てくれるとしたら、あなたはもうポックリ往きたいとは思いませんか？」。結果は、先の93%の中の82%の人が「それでもポックリ往きたい」と答えたのです！

【尊厳維持への願い】

「寝たきりになったとしても、家族はそれをぜんぜん迷惑がらない」。つまりポックリ往きたい訳の1つを消去してみたのですが、それでも82%の人がやはりポックリ往きたいと願うということは、残されたもう1つの訳、つまり「寝たきり」がまずはポックリ願望の大きな要因である証拠でしょう。

“寝たきり”状態——高齢者にとってこれほど忌まわしい言葉はないかもしれません。赤ちゃんに許されるほどの行動の自由もなく、自分で窓を開けることも、電気のスイッチを切ることもできない。下の世話で人に迷惑をかけ、食事も入浴も着替えもすべて人にやってもらうだけ。だれかに何かをしてやることもできず、何もかもやってもらうだけ——。要するに“寝たきり”状態は、自立を損ない自由を失い、責任をもつことさえできず、孤独であり未来もなく、その意味で人としての「尊厳」や「プライド」を根こそぎにする状態……。あちこちで呟かれるお年寄りの言葉から推測される「寝たきり像」は、要約すれば以上のようなものになります。これではまさに、ある1人のおばあさんが調査のなかで言ったように——「そうなるくらいなら、ポックリ往ったほうがマシ！」ということになってしまうでしょう。そしてそのおばあさんのそのひとことから、はっきりわかります。ポックリ寺にお参りするお年寄りには、「寝たきりになって自立できない人間、つまり人間としての尊厳を損なわれてまで生きていくのは死よりも辛い」という、「尊厳維持」の動機があったのです。

結局ポックリ願望は、形のうえでは一見「ポックリ死」を願う「死の願望」のように見えますが、それは表面上のこと。実は

そのいちばん奥底に、「尊厳を保ったよい人生を生きたい」という痛切な願いが隠されていることが明らかです。つまりポックリ願望は、「生の願望」、それも自立して尊厳の保たれた「よりよい生の願望」と結論してもよいのではないのでしょうか。

【尊厳とは何か】

しかし、ここでももちろん、そのような“願望”があるということは、“現実がそうでないから”ということの意味していることに注目しなければなりません。「高齢者と尊厳」の問題は、たいへん難しい問題です。老いる過程自体が、自立ができなくなるプロセスそのものだからです。だれでも最後はどうしても他者に依存せざるを得ません。その意味で、自立を尊厳の中核に据える人は、老年期は必然的に尊厳を失う辛い時期となってしまいます。

この難問に、軽々しい答えは用意されていません。終末期における「尊厳死」の問題が話題になるたびに賛否両論があることから、この問題の難しさがわかります。

ポックリ寺の調査結果は、高齢者の、いやもっと広く人間の尊厳とは何か、という基本的な問い直しが、高齢社会の今あらためて私たち個々につきつけられていることを示しているのではないのでしょうか。



井上 勝也 教授

「井上教授のコラムアーカイブ」は隔月掲載の予定です。

支部紹介 Vol.6 ～石川支部～

支部の概要

■設立年月日：平成14年4月1日

■支部長・支部理事：真砂 良則

(北陸学院大学人間総合学部社会福祉学科 学科長・教授)

■事務局長：丸田和夫 (まるた老年リハビリ研究所 所長)

主な活動内容

公開セミナー（年に1回）とACS（年2～3回）の開催の他、会員の交流会、運営会議を随時、行っています。昨年、佐藤会長にセミナーの講演とACSの助言をお願いしました。今年は12月7日(日)に大川副会長にお越しいただく予定です。

メッセージ

高齢者のより良い生活を目指して
頑張っておられる現場の皆様、
一緒に会の活動をやってみませんか？
参加をお待ちしています！



真砂支部長

石川支部の設立は平成14年4月ですが、その1年前から事例検討会を積み重ねてきました。

平成15年には第6回日本老年行動科学会金沢大会を開催しています。今年の4月には本部のACSにおいて石川支部から事例を発表させていただきました。

「ケアと研究の出会いの場」をモットーに支部活動を活性化していきたいと思っておりますので、石川をはじめ富山や福井の皆様も、奮ってご参加下さい。

【問い合わせ先】 (事務局所在地)

〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11

北陸学院大学 人間総合学部 社会福祉学科 真砂研究室内

日本老年行動科学会 石川支部 (担当：真砂 良則)

TEL：076-280-3850 FAX：076-280-3851

Email：masago@hokurikugakuin.ac.jp